

■■ 施設見学会 ■■

宮古島市クリーンセンター

技術委員会副委員長 松本 和正
(株式会社タクマ)

1. はじめに

2023年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行されて初めての視察は、田中勝先生を団長に宮古ブルーの名で知られる宮古島市で開催された。宮古島市クリーンセンターは3棟で構成され、各々時期をずらして整備が進められた。2016年11月に企画運営委員が訪問した際にはごみ焼却棟のみであったが、3棟すべてを視察することができた。

今回の視察では、離島ならではの課題や取り組みに注目しながら、新たに完成したりサイクル棟とプラザ棟を中心に調査をした。その中で担当職員の方から非常に興味深く有益な情報を得ることができたので報告する。

2. 視察概要

- 1) 日程：2023年10月19日（木）
- 2) 参加者：18名
- 3) 視察先：宮古島市クリーンセンター

3. 施設概要

- 1) 事業主体：宮古島市
- 2) 所在地：宮古島市平良字西仲宗根 565-6
- 3) ごみ焼却棟の設備概要
 - 処理能力：63t/日（31.5t/16h × 2炉）
 - 燃焼設備：ストーカ式
 - 余熱利用設備：施設内温水利用
 - 建築面積：2,520㎡
 - 工期：2013年3月～2016年3月

4) リサイクル棟の設備概要

- 処理方式：破碎・選別方式
 - 処理能力：11t/5h
 - 対象ごみ：不燃ごみ・粗大ごみ、びん、缶、ペットボトル
 - 建築面積：2,513㎡
 - 工期：2016年9月～2018年12月
- ### 5) プラザ棟の設備概要
- 建築面積：853㎡
 - 工期：2018年12月～2020年3月



写真1 施設全景(施設パンフレットより)

4. 見学記

1) ごみ焼却棟

ごみピットを見学した際に、他施設と比べてごみが白く軽そうな印象を持った。宮古島市では生ごみや新聞等の紙ごみの分別収集を進めているとのことで、ごみ量削減に向けた取り組みの成果を見て取ることができた。

一方でプラスチック製容器包装については、本島に輸送する方が費用がかかるという理由か

ら、分別収集は行わず、普通ごみとして焼却されていた。

2) リサイクル棟

宮古島には多くの観光客が訪れるが、発注後にクルーズ観光が企画されたことで、観光客がさらに増加した。その影響で、計画を上回る量のペットボトルが搬入される事態となったが、予備ヤードを使って受入れを維持しつつ、時間を延長して処理する等、運営方法に創意工夫を凝らして対応されていた。

ペットボトルのほか、びん、缶や鉄・アルミ等、回収した資源物は本島への輸送に頼らざるを得ない状況にあることから、輸送費等を加味した経済合理性のある資源化が必要であると感じた。

3) プラザ棟

プラザ棟では、家庭で不要になったリユース可能な品が持ち込まれ、無償でもらい受けたり、家具やベビー用品等を入札、抽選でもらい受けすることができる。市街地に近く立ち寄りやすい立地と SNS による拡散等により、2022 年度は延べ3万人が来館し、約7万個の品が取り引きされていることから、取り組みが市民に根付いてきていることがうかがえる。



写真2 リユーススペース

そのままリユースできない品は工房で修理したり、古着リメイク等のワークショップが開催されている。市が一方的にサービスするのではなく「市民と一緒に作る」ことが成功のカギと考え、ワークショップの内容等は市民と一緒に企画しているとのこと。



写真3 ワークショップの作品展示

プラザ棟では、環境啓発にも取り組まれている。宮古島に関するエピソードを交えながら、「今と同じごみ量を出し続けたら宮古島はどうかと思う?」と問いかけ、考えさせうえて、「だからごみの減量が大事だ」と訴えかけることで、意識の変革を促す工夫がなされていた。説明は具体的で分かりやすく、参加者一同が聞き惚れるほど担当職員の想いが伝わる内容であった。環境啓発のあるべき姿として広く普及することを期待したい。

5. おわりに

今回見学させていただいた宮古島市クリーンセンターは、離島ならではの課題を抱えつつも、ごみの減量化や不用品のリユース、環境啓発に取り組まれており、当技術委員会にとって大変学ぶところの多い施設見学となった。

最後になりましたが、施設の説明、質疑応答に丁寧に対応していただきました宮古島市生活環境部環境衛生課の川平課長をはじめ、関係者の皆様方に紙面をお借りして心より厚く御礼申し上げます。



写真4 集合写真